特集

いざという時、助け合えるまちへ

▲自衛隊による講話を聞いている様子

7月5日(日)、中島区で避難訓練が行われました。

中島区は令和元年、令和3年の豪雨災害で被災した際の教訓を生かし、防災意識を高めるために、毎年訓練を行っています。

当日は土砂災害を想定した避難訓練が行われ、地域住民130人と中島区にある企業から3人が参加されました。

当日のタイムスケジュール

1 災害発生 ※中島区公民館から「安否確認・避難開始」の放送
- まずは周囲の状況を確認し、自分の安全確保を行う(自助)

2 安否確認(共助)
- 家族・近隣の安否確認(各班で協力して声をかけ合う)
- 避難に時間のかかる高齢者などの安否確認は数人で協力して行う

3 班別に中島区公民館へ避難
- 各班長、消防団員をリーダーとし、班別に徒歩で公民館へ

4 避難完了
- 班ごとに受付をし、避難完了

5 自衛隊による講話
- 令和3年水害のスライドをもとに、避難の仕方、自助・共助の大切さなどの講話

自治会で安否確認を行う重要性

地震、水害などの大きな災害が発生した時に急がれるのは、**地域住民の安否確認**です。安否確認が早いほど助かる命も多くなります。地域において、住民の安否確認に重要な役割を担うのは、常日頃から住民と交流し、協力し合っている**「自治会」**です。

▲離陸前のドローン

中島区公民分館に避難してくる様子